悠久の京を訪ねて Part Ⅳ Vol.1

京は古より人々が集い、その気候・風土の中、人々の生活が営まれてきました。
京都府内の遺跡で多数発掘された出土品により、縄文・弥生時代までさかのぼり、当時の様子を知ることができます。
私たちが住んでいる地域にはどのような歴史があったのか、出土した資料を基に過去の文化やその発祥の歴史を訪ねましょう。

KYOTO ARCHAEOLOGY CENTER

浅後谷南遺跡の導水施設

■古墳時代の導水施設

京丹後市浅後谷南遺跡は、日本海に注ぐ福田川流域の丘陵裾に位置する弥生時代から平安時代の集落遺跡です。平成9年の発掘調査で、下の写真のような木製品を組み合わせた施設が見つかりました。これは、谷川の清らかな水をとるための「導水施設」です。

導水施設は、幅約2m、深さ約40cmの古墳時代前期の水路内に設置されていました。中央にV字の切り込みを入れた横板で水の流れをせき止め、上澄みだけを流すように工夫されていました。水を受けて流す木製品は、全長3.5mの杉の一木材で、引き込んだ水を流す幅30cmの「樋」とその水を溜める幅60cm・長さ110cmの楕円形の「槽」が一体となっています。

導水施設（手前の板で水をせき止めて上澄みだけが流れるようになっています）

■導水施設の「まつり」

この導水施設の上流にも水をせき止める施設があり、周辺からは舟形・鳥形・円盤状木製品などの祭祀遺物や壺・甕・高杯などの土器が見つかっています。木製品は実用品を模したもので、当時の人々は、導水施設に溜めた清らかな水とこれらの道具を使って水辺の「まつり」を行ったと考えられます。同様の導水施設は、奈良県御所市南郷大東遺跡でも見つかっており、ここでは近くに祭殿とみられる大型建物がありました。これらの成果から導水施設の「まつり」はその地域の支配者が行った重要な祭祀の一つと考えられています。

浅後谷南遺跡の導水施設と祭祀遺物は、当時の祭祀を知る上で貴重な資料といえ、京都府指定文化財「水祭祀遺物（浅後谷南遺跡出土）」となっています。

鳥形木製品

円盤状木製品

鏡を模したと考えられています

協力：公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　企画・制作：京都新聞COM